

平成23年度病害虫発生予報第12号

平成24年3月1日
愛知 県

1 作物

排水不良はムギ類の赤かび病の発生を助長するので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

2 果樹

今後の気温は平年並と予想されていますが、近年は気温の変動が大きくなっているようです。果樹の生育ステージに留意した栽培管理や防除を心がけましょう。

ナシ黒星病は昨年秋の発生量が多かったため、第一次伝染源となる越冬菌量も多いと考えられます。発芽前の防除適期を逃さないように防除しましょう。

モモせん孔細菌病も、秋の発生量が多かったほ場では、第一次伝染源となる越冬菌量が多いと考えられます。枝病斑は見つけ次第除去し、開花直前の防除適期を逃さないように防除しましょう。

昨年、カキでフジコナカイガラムシの発生量が多かったほ場では、越冬密度が高くなっていると予想されます。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。また、ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多かったほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病、モモ胴枯病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

3 野菜（露地）

タマネギでは、気温が高く降雨が続くと、べと病が発生するおそれがあります。発生を確認したら直ちに防除しましょう。また、本病の越年罹病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。

4 野菜（施設）

果菜類の灰色かび病は曇雨天が続く、多湿になると発生量が増加します。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病を伝搬するタバココナジラミが増殖しやすくなるので、防除を徹底しましょう。

ナスでは、すすかび病の発生量が多い状況です。日中の換気や夜間の加温などで過湿にならないようにしましょう。また、農薬で防除する際は葉裏にもかかるように散布しましょう。

キュウリでは、べと病の発生量が多いほ場があります。施設内を適切な湿度に保つとともに、適正な肥培管理を行い、草勢を低下させないようにしましょう。

イチゴでは、うどんこ病の発生量がやや多い状況です。多発すると防除が難しくなるので、発生を確認したら速やかに防除しましょう。また、ハダニ類の発生量がやや多い状況です。2月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考に防除しましょう。ミカンキイロアザミウマは、気温が上昇するこの時期から発生量が多くなります。ほ場での発生状況に注意し、多発する前に防除しましょう。

5 花き

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病が発生していない親株から穂を採りましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	多い	全域	昨年秋期の発生量が多い 3月の降水量はやや多い	+ +
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	昨年の発生量はやや多い 3月の降水量はやや多い	+ +
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	昨年の発生量はやや少ない	-

・ 防除対策

〔ナシ・黒星病〕

発芽前までに速やかに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、ICボルドー48Qやデランフロアブルなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤とICボルドー48Qの散布間隔は2週間以上あけるようにしましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

春型枝病斑は見つけ次第切り取って除去しましょう。カスミンボルドーやICボルドー412などで開花直前に防除しましょう。

野菜

・ 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
タマネギ	白色疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の降水量はやや多い	- +
	べと病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はやや多い	± +
トマト (施設)	疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はやや少ない	- +
	葉かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間はやや少ない	- +
	ハモグリバエ類	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない	-

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや少ない	± +
	すすかび病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間はやや少ない	++
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はやや少ない	± +
	うどんこ病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い	+
	灰色かび病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間はやや少ない	++
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はやや少ない	- +
	うどんこ病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	ミカンキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±

・ 防除対策

〔タマネギ・べと病〕

発病のおそれがあるほ場では、ダコニール1000、フロンサイド水和剤などにより予防散布をしましょう。発生を確認したほ場では、カーゼートPZ水和剤、フェスティバルC水和剤など治療効果のある農薬で防除しましょう。なお、収穫を開始しているほ場もあるので、収穫前日数や飛散に十分注意し農薬散布しましょう。

〔ナス(施設)・灰色かび病、すすかび病〕

過湿にならないように、換気や送風を積極的に行いましょう。アフエットフロアブルやカンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・うどんこ病〕

発病葉は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、トリフミン乳剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

過湿にならないように、換気や送風を積極的に行いましょう。老化葉や発病葉は早めに除去しましょう。ライメイフロアブルやランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

過湿にならないように、換気や送風を積極的に行いましょう。スミレックス水和剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・うどんこ病〕

発病葉は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、トリフミン乳剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・うどんこ病〕

発病葉や発病果は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、パンチョTF顆粒水和剤、フルピカフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

2月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台2月24日発表）

特に注意を要する事項

2週目は気温が高い見込みで、平年よりかなり高くなる可能性もあります。

予想される向こう1か月の天候

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率50%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、高い確率60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔 気 温 〕 低 い：20% 平年並：50% 高 い：30%

〔 降 水 量 〕 少 ない：20% 平年並：30% 多 い：50%

〔 日 照 時 間 〕 少 ない：50% 平年並：30% 多 い：20%

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。